

12月放送総局長定例記者会見要旨

(1) 「第72回NHK紅白歌合戦」ゲスト審査員・審査方法決定 (正籙放送総局長)

第72回NHK紅白歌合戦が、いよいよ来週に迫ってきた。ゲスト審査員が決まったので、発表させていただく。東京2020オリンピック・パラリンピックで活躍された方をはじめ、6名の皆様に東京国際フォーラムにお越しいただき、審査をお願いする。

あわせて、紅白歌合戦の優勝チームを決定する審査方法についてもお知らせする。審査にご参加いただくのは、視聴者の皆さんからリモコンで投票していただく「視聴者審査員」、東京国際フォーラムにお集まりいただいたお客様による「会場審査員」、そして、今発表した「ゲスト審査員」の皆さん。まず、これら3つのグループごとに、紅組・白組のどちらが良かったかを決める。そして、それぞれの勝敗を1ポイントとして、ポイントの多い方を勝ちとする。テレビを通して投票いただく方には、昨年に引き続き、紅白をご覧いただいた時間の長さが長いほど得票数が増えていく仕組みを採用する。さらに今回から、視聴時間に応じて獲得した1票から最大5票を、紅組・白組に分けて投票していただけるようになる。例えば、5票お持ちの方は、紅組に3票、白組に2票といった形に振り分けることができるようになる。

(詳細は報道資料を参照)

(2) 「ゆく年くる年」中継場所決定 (小池副総局長)

全国各地の年越しの情景をお伝えする「ゆく年くる年」。今回のテーマは「命と暮らし 笑顔の明日へ」だ。今年もコロナ禍が続き、東京オリンピック・パラリンピックが無観客となるなど、経済や暮らしが大きな影響を受けた。「来年こそは笑顔を取り戻したい」という願いを、全国各地から生中継でお伝えする。キーステーションは、東京の観光名所、浅草の浅草寺。「おはよう日本」キャスターの高瀬耕造アナウンサーと、桑子真帆アナウンサーが進行役を務める。京都の「清水寺」、長野の「善光寺」など、徐々に賑わいが戻り始めた各地の名所と結ぶほか、終夜体制で飛行機の整備が行われている羽田空港の格納庫にもカメラが入る。来年、本土復帰50年となる沖縄からは、基地と隣り合わせの神社から平和への祈りをお伝えする。

(詳細は報道資料を参照)

(3) 「北京五輪」関連 (小池副総局長)

・放送計画について

来年2月の北京オリンピックの開幕まで、あと40日余りとなった。現段階での放送計画をまとめたのでお知らせする。放送計画は、各波ごとに分かれている。表の見方だが、黄色が生中継、ピンク色が録画、緑色がハイライト放送。中国・北京と日本の時差はマイナス1時間だ。

まず、総合テレビ。連日午前10時すぎから深夜0時ごろまで、フィギュアスケートやスピードスケート、スキージャンプなど、オリンピックの熱気をお伝えする。一部Eテレを含めた地上波で放送する競技は、より高精細なBS4Kでもご覧いただける。BS1では、総合テレビでお伝えできない競技などを、連日午前9時から午後11時ごろまで、生中継を中心にお伝えする。BS8Kは、フィギュアスケートやショートトラックなどを生中継でお伝えする予定だ。ラジオ第一では、注目競技を中心に、すべて生中継でお伝えする。

きょう発表の放送計画は、あくまでも現段階のもので、今後、変更の可能性がある。なお、パラリンピックの放送計画については、現在検討中だ。来月中にはお知らせしたいと考えている。

・五輪キャスターについて

続いて、開閉会式を担当するキャスターをご紹介します。開会式は、廣瀬智美アナウンサーと一橋忠之アナウンサーが伝える。廣瀬アナウンサーは、開会式を担当するのはロンドン、ソチに続いて3回目、一橋アナウンサーは初めてとなる。閉会式の放送を担当するのは、廣瀬アナウンサーと塚本貴之アナウンサー。コロナ禍で初めて海外で開催されるオリンピックの開閉会式を、スポーツの取材経験が豊富な3人のアナウンサーに、しっかりと届けてもらいたいと考えている。

・NHKスペシャル

続いて、北京オリンピック関連の番組をご紹介します。2回シリーズで、NHKスペシャルを放送する。

1回目は、スピードスケート女子の日本のエース、高木美帆選手。女子1500メートルの世界記録保持者で、北京では、1000メートル、パシュートと合わせ、3冠が期待されている。これまで、中長距離の金メダルは、体格や筋力に勝る海外勢に阻まれてきたが、高木選手は、長年にわたって修正を繰り返し編み出された独自の滑りで世界をリードしている。中学生で初めて参加したバンクーバーオリンピックから12年余り。独自取材で積み重ねた成長の記録をひも解きながら、「納得できるまで考え抜く」高木選手の強さの源を描いていく。

2回目は、フィギュアスケートの男子で勝負を決すると言われる「4回転ジャンプ」をめぐる物語だ。2大会連続優勝の羽生結弦選手とライバルのネイサン・チェン選手、宇野昌磨選手、鍵山優真選手が、どのように試行錯誤して、王者につながるジャンプを完成させるかを描く。

(詳細は報道資料を参照)

(4) 視聴者を広げる新たな番組とキャンペーン (若泉副総局長)

・BS1「超絶ダンスバトル ブレイキン」

2022年、NHKは、東京オリンピックで注目されたアーバンスポーツの放送にも力を入れていく。

1月30日放送のBS1スペシャル『超絶ダンスバトル! ブレイキン 世界頂上決戦』では、世界最高峰の舞台上で繰り上げられる頂上決戦を、スピード感と迫力の映像でお楽しみいただける。また、大会を8Kカメラで細部にわたって収録する。ルールや楽しみ方など初歩的な知識から、バトルの心理的駆け引きなど、詳しい解説で見どころをお伝えする。ご期待いただきたい。

・BSP 特集ドラマ「旅屋おかえり」連動キャンペーン

BSプレミアムで1月25日から4夜連続で放送する特集ドラマ『旅屋おかえり』は、「あるひとの思い」を背負って各地の旅先に出向く「旅代行」の物語だ。NHKでは、ドラマの「秋田編」「愛媛・高知編」と連動したキャンペーン「あなたのおかえり」を本日スタートした。このキャンペーンでは、視聴者の皆さんから、「行きたかった場所」や「会いたかったあの人」の写真や動画をエピソードとともに募集している。NHKがあなたの代わりに現地取材し「最新情報」や「近況」をホームページでご報告する。ドラマとあわせてご期待いただきたい。

(詳細は報道資料を参照)

(5) 年末年始のおすすめラジオ番組 (正籙放送総局長)

続いて、ラジオについて。「ラジオ離れ」が進んでいると言われてきたが、実はこのところ、スポーツや家事をしながらスマートフォンなどで気軽に楽しめるとして、注目を集めている。NHKでは、この時代に合わせた新しい形のラジオ番組を、この年末年始に放送する。それが、放送時間の短い「短尺番組」だ。今回、5分から10分の番組を複数企画した。短尺番組を集中的に企画・放送するのは、これまでにない試みだ。中でも、おすすめしたいのは、5分番組の「耳1 (みみわん) グランプリ」。お笑い芸人が、それぞれ1分間の持ち時間で漫才やコントを披露する。司会は千原ジュニアさん。5日間で15組が出場し、グランプリは、リスナーの投票で決まる。

続いては、ASMRと呼ばれる心地よい音を5分間流し続ける「ゾワゾワラジオ」。放送で紹介する音の1つが「たき火」だ。ASMRは若者を中心に人気で、こうした音を集めた新たな短尺番組としてお届けする。いずれも短い番組なので、聞き逃した場合は、ネットラジオ「らじる★らじる」でお楽しみいただきたい。

ほかにも、年末年始にはたくさんのおすすめ番組がある。ラジオは、災害などいざという時、頼りになるメディアだ。ラジオを聴いてみたい、聴き始めたばかりという人たちに、親しんでもらうきっかけになるようお願いしている。

(詳細は報道資料を参照)